



31st

藤枝南ロータリークラブ 会報

例会：毎週金曜日
会場：小杉苑 藤枝市青木2-35-30
TEL：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内 藤枝市藤枝4-7-16
TEL：054-646-3919 FAX：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2021-22年度
会長：竹田敏和 幹事：望月 誠
副会長：樽井 勉 副幹事：鈴木寿幸

例会 第1433回 通常例会/小杉苑

ソング：君が代、奉仕の理想 ソングリーダー：村松章典君

■ 会長挨拶

竹田敏和君



本日よりやっと通常の例会に戻ります。7月16日の例会以来です。県の警戒レベルもレベル2と安定しています。ただ、食事の時も会話にはできるだけ気を付けていただき、感染対策に注意をしながら例会運営をさせていただきますので、皆様のご協力を引き続きお願いいたします。

2015~16年度、内山会長のもと幹事を務めさせていただきました。当時は、静岡第5分区に属してまして、静岡西ロータリークラブの三井ガバナー補佐のもと、2016年3月5日にホテルセンチュリー静岡でIMが開催されました。その年は、5分区に所属する9クラブが「我がクラブ自慢」を発表するということでした。内山会長と相談して、当クラブでは会員旅行を取り上げることにしました。藤枝南クラブでは毎年、会員旅行を行っていますが、他のクラブでは周年行事として行うぐらいで毎年行っているクラブはありません。桑原会員が「我がクラブ自慢」を発表してくれました。その主旨は、

初代富澤会長の言葉「エンジョイロータリー」「まずはロータリーを楽しもう」ということから

会員親睦旅行が生まれ、また、企業を続ける3要素に

- ・企業が健康であること
- ・自分自身が健康であること
- ・家族の理解と支えが必要であること

この3要素は、会社だけでなくロータリー活動にもつながるものであり、家族に感謝の気持ちを伝える機会を積極的に設けていこうということから、藤枝南クラブでは夜間例会も会員旅行も夫婦同伴で行っています。と発表してくれました。

本日の理事会に今年度の会員旅行(案)を上程させていただきました。昨年、松浦年度において出雲への旅行を計画されましたが残念ながら実現できませんでした。私も、何年前かに所属している志太木材協同組合の研修旅行で行ったことがあります。もう一度機会があったらと思っていましたので、来年5月28(土)、29(日)の一泊二日に出雲への会員旅行を計画させていただきました。出雲大社、松江城、玉造温泉、足立美術館と回る予定です。30周年の分まで皆さんに楽しんでいただけるように基金からも援助をいただき参加しやすいように計画させていただきました。一人でも多くの方が、そしてできればご夫婦での参加をお願いしたいと思います。

■ 出席報告

佐野博己君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
43/51 84.31%	48/51 94.11%

(1)欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 阿井君 ○池ヶ谷君 ○伊藤彰君 ○江崎君 ○川口君
- 笠原君 ○桑原君 ○渡辺哲君

社を紹介してもらって、5年位勉強して父の商売をやるつもりで相談すると、「馬鹿いうじゃない、すぐ家で働け」ということで、すぐに働き始めました。

当時の仕事環境を振り返ると、四、五人の大人（老人含む）と毎日現場に行き帰ってくる。いつも大体同じ人と顔あわせてやってくるのかなと考えはじめたら、仕事は覚えても自分が小さくなっちゃうなって感じました。自分が楽しくなるためには、自分で環境を変えなければと思い始めました。そのためには、自分が人を集めてなければと動きまわりました。若い自分の仲間がたくさんいればいろんなことを吸収できるし、刺激になるし、毎日楽しくなるかなって思い始めて仲間を少しずつ会社に引っ張ってきました。いつしか、「自分の会社のサッカーチームを作りたい」と夢をもって頑張ってきました。フットサルくらいはできるぐらいになったのでしょうか。

自分の会社の人たちに毎日いろんなことを教えてもらえます。一人一人が教科書であり、先生であり自分を映す鏡であったり。

会社は社長の器にしかならないと言います。

今の会社が等身大の自分かなって改めて思ったりします。

ロータリアンの諸先輩をお手本にして、人の器を、小鉢から大鉢になれるよう日々頑張っていきたいと思います。



平原望君

今回は自己紹介“私が目指すところ 環境に絡めて”というテーマでお話します。

私は、排水処理施設 特に浄化槽の維持管理を主な生業としておりますので、常に如何にきれいな水を自然環境に循環させるかということを命題の中心に置いて業務に取り組んでいます。

私の取組の核となる考え方でバイブルとなるの

がこの『トイレは世界を救う』という本です。著者は、ジャック・シムというシンガポール人起業家で、たった1人でWTO世界トイレ機関という組織を作り、“臭い物に蓋をせず、笑いに変える”をモットーとして国連やビル・ゲイツが賛同協力して、エリザベス女王も認めたトイレ普及活動を世界的に実践・拡大している人物で、ミスタートイレと呼ばれています。

ただ、WTO といえば一般的には世界貿易機関であり、クレームが来たり訴訟を起こされなかったのかと思いますが、大丈夫だったようです。

2013年には、国連により“世界トイレの日(毎年11月19日)”を制定するに至っております。更に、2015年9月の国連サミットで採択された、国連加盟国が2030年までに達成する為に掲げられた持続可能な開発目標17項目、いわゆるSDGsの6項目目にも、“安全な水とトイレを世界中に”が高々と掲げられております。

もっと言いますと、国際ロータリーがグローバル補助金によって実施される奉仕活動の7つの重点分野の1つにも、“水と衛生”があります。

僭越ながら、有無をいわず私のライフワークの指針となります。

この本に掲載されているトイレにまつわる幾つかのデータをご紹介します。

データ自体が、6～7年前のものであることをご承知ください。

◎平均的に、人は1年に25,000回トイレに行く。総合すると、人生のうち約3年間トイレにいる計算になる。

◎世界人口の54%、約4.2億人が安全で整備されたトイレ・公衆衛生環境に置かれていない。

◎汚染水が改善されれば、入院患者が半減する。発展途上国での病院ベッドの50%は汚染された水を原因として病に倒れた人によって埋まっている。

◎飲料水、トイレ、公衆衛生の問題を解決すれば、世界の病気の10%を減らすことが出来る。

◎現在、世界人口の15%が屋外排泄している。女性とトイレに関して言うと

◎世界中の女性の3人に1人が、安全なトイレ環境が無い為に病気やハラスメント、レイプなどの危険にさらされている。

◎約5億3,000万人の女性は、戸外のトイレに行くことのほかに、選択肢がない。

◎毎日1,400人以上の母親が、下痢が原因で子供を亡くしている。

この下痢は、安全で清潔なトイレと水が無い為に引き起こされている。

学校とトイレに関して言うと、

◎最貧国、低所得国では45%の学校しか十分なトイレ施設を備えていない。

◎ケニアの学校での、水・トイレ公衆衛生を向上させるプログラムは、下痢による病気を半分に減らした。

投資とトイレに関して言うと、

◎水洗トイレは世界で最も安い薬

世界で最も重要な医療技術は何か?というアンケートで、水洗トイレが1位に選ばれた。

予防注射・レントゲン・手術・ワクチンなどを抑えて、ダントツである。

◎トイレに1ドル投資すると、労働力の安定確保・労働生産性の向上等もあって、リターンは4.3ドルと言われている。非常にハイリターンの投資対効果である。

ではこのミスタートイレが、どの様にトイレの重要性を世界に普及させてきたかをお話しします。もし、ミスタートイレがビル・ゲイツさんなら、ポンとお金を出して世界中に10億個のトイレを作ってしまう一件落着となるかもしれませんが、そうはいきません!!

強いやる気さえあれば、誰でもできる活動でなければなりません。それは、ムーブメントを作り人々をどんどん巻き込んでいくことです。

ミスタートイレは、幸い本家世界貿易機関からは訴えられなかった世界トイレ機関というインパクトのある組織を立ち上げ、トイレ普及活動のスタートを大々的に宣言して、それ以降4年に1度、世界各地で世界トイレサミットを開催していきます。そういったニュース性の高い活動を発信することにより、メディアが食いついてきます。メディアがこぞって発信すると、メディア露出を好む政治家や著名・有名人も食いついてきます。このことは更に官僚・政府を動かします。

そして学会・NGO・企業が呼応して、トイレ普及に関する具体的な事業が世界各地で実現します。

この一連のムーブメントは、世界トイレの日を制定するに至った様に国連が全面的に支持しており、さらにはユニセフ、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、その他世界各国の巨大企業の支援も受けるに至っており、ついには映画化もされてしまいました。

ちなみにビル&メリンダ・ゲイツ財団は、世界トイレチャレンジという活動を行っており世界で

最も安全で低コストのトイレを開発に貢献した人に、2.5億ドルを支払うとしております。こちらはカリフォルニア工科大学がゲットしたようです。

世界的トイレ普及活動におけるインパクトのある事例をご紹介します。

インドでは、2013年に国連で世界トイレの日が制定された翌年の2014年に、モディ首相が1.1億個のトイレを作ると公約しました。人類史上最大のトイレプロジェクトです。

中国のターニングポイントは、2008年の北京オリンピックです。もしトイレが整備されなかったら、北京オリンピックの成功は無かったです。確かに昔の中国のトイレは、トイレと言って良いのか、酷かったですね。“ニーハオトイレ”といって、仕切も無くて丸見えです。

観光大国でもある中国が、きれいなトイレなくして観光業は成り立たないと、国家威信をかけてトイレ美化に突き進んでおります。“トイレ革命”だそうです。

この様な世界的なトイレ普及のムーブメントは、私自身にも大いに刺激を与えていております。日本のトイレは最高だと称賛されていますし、実際にそうであると思います。

ただそれは、日本のトイレ技術が勝因だけでなく、トイレ文化こそが日本の素晴らしいソフト・パワーだと思います。

トイレを取り巻く社会・文化・トイレに対する水準・期待値一すなわち、次に使う人のことを考える気遣い、清潔にしよう、丁寧にものを扱おうよといった気持ち。

こうした、日本人にとっては空気のように当たり前だと思われていることが、最大の強みだと思います。

私は今後の人生において、この日本の最強輸出資源であるトイレ文化を、世界の最もトイレ普及率の低い地域に広めることの一端を担えれば幸せだと思っております。

ビル・ゲイツさんに2.5億ドルをもらって、はたまた日本のODA枠をゲットすることにより、日本の最高水準で最先端の技術に加え、更に低コストのトイレを引っ提げて、アフリカの、そうですね、トーゴ共和国あたりにも日本のトイレ文化とトイレ技術を輸出できればな〜っと、勝手に夢見たりしております。

そのためにも、私自身まだまだ勉強し、仕事を頑張っただけじゃありません。

頑張ります！

最後に1点お話しします。

昨日、残念で悲しい訃報が飛び込んできました。秋篠宮妃紀子様のお父様 川嶋辰彦さんが亡くなりました。

川嶋さんは私の高校の大先輩です。

学習院大学で教授をされていましたが、学生さんを引率してタイ北部山岳地帯においてボランティアで給排水施設の整備に尽力されていました。素晴らしいことです！僭越ながら正に、私の目指すところですよ！！

最大限の敬意を表し、心よりお悔みを申し上げます。



私の一押しは、我が家の母ちゃんです
私の仕事の補助をして、家事の全てを、こなしてくれています

母ちゃんはまさに、我が家の二刀流です

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
11/12(金) 第 1434 回	外部卓話	小杉苑
11/19(金) 第 1435 回	交流例会	小杉苑
11/26(金) 第 1436 回	早朝例会	
12/3(金) 第 1437 回	クラブ年次総会	理事会



